



輸送サービス労組 東京支部

2024.1.27
No. 058

「感電」は 鉄道の3大労働災害

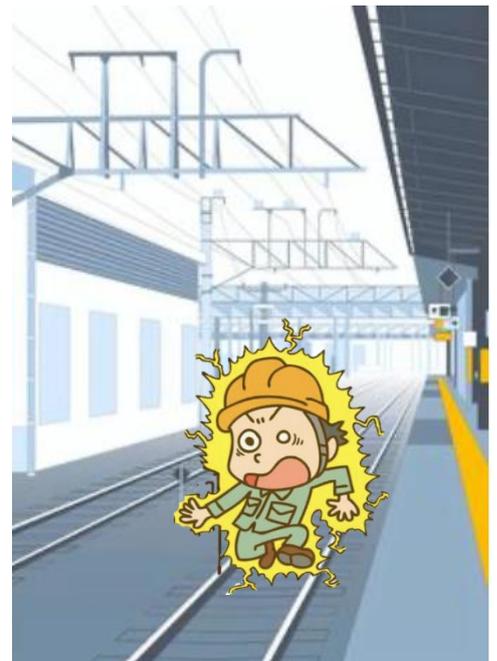


前代未聞！復旧作業中に感電事故！

架線は直接触らなくても感電！特別高圧（AC25,000V）は付近にいるだけでも感電する恐れあり！

1月23日14時43分頃、JR 東日本は上野～大宮間で発生した新幹線架線垂下事故の復旧作業にあっていた作業員2名が感電するという事故が発生し、2名が重軽傷を負った。復旧作業中の感電事故は聞いたこともない。斎藤国土交通大臣は「誠に遺憾」だとしううえで、原因究明と再発事故防止、国交省への報告が命じられた。

昨年11月、JR 東日本は「安全計画2028」を打ち出し、実現に向けてトップメッセージには『マニュアルで表面的なやり方だけを覚えるのではなく、最悪どうなるのかというリスクのイメージを持ったり、新たに導入されるシステムのしくみ・動作原理を理解したり、「うまくいっていること」から得られた工夫・コツを共有するなど、「仕事の本質」を意識することで、新しい仕事のしくみの中でも問題に気づき、一人ひとりが、これまでは考えられなかった事態や過去の経験を超える事態が起こることを想像して、安全を先取することに挑戦していくことです。』と記載されている。しかし、今回の感電事故ではこれらがまったく現場で生かされていなかったことは明白であります。この間の会社施策で現場の安全レベルは地に落ちており、会社が「安全計画2028」のテーマとして掲げている「本質をひまえ、想定外も想像して安全を先取る」という言葉は現在の安全レベルでは絵に描いた餅である。JR 東日本は当該作業員には架線に電気が流れていることは伝えたと言作業員個人の責任に押し付けようとしている。そもそも最悪どうなるのかというリスクを考えればき電停止での作業を継続すべきである。今回の事故で利用者からの信用は大きく失った。今こそ鉄道の安全の危機と安全を担う人材育成の危機に向き合い、努力を積み重ねなければいけない。



私たち輸送サービス労組は
すべての仲間が
真の笑顔で笑いあえる職場
すべての仲間が
明るい未来を描き
活気ある職場を
取り戻していく！